

絵本部会通信 15号

2022年3月30日

国際幼児教育学会第43回大会絵本部会企画紹介

『共に生きるかたちの再考—Storytime でひとを結びコミュニティを創造する試み—』

石川由美子（宇都宮大学共同教育学部/地域創生科学研究科(博士前期後期課程)教授

今秋のIAECE学会は《持続可能な社会実現のための幼児教育～SDGsの視点から考える幼児教育とは～》をテーマに9月24日から10月7日まで、オンラインで開催されます。

昨年の大会は2020年、21年と続いている新型コロナウイルス感染症パンデミック下で4か国の乳幼児期の子どもたちが、ニューノーマルウィズコロナ期にどのように健やかに育つのかを模索する充実した機会となりました。

絵本部会は《グローバリズムを育む絵本》として、日本で入手できる国境を越えた絵本を、子ども・保護者・保育者に伝え続けている多様な立場の方に登壇いただき、それぞれが「根」としてお持ちの多様な『グローバリズム』を、お互いに感受し合う貴重な〈絵本タイム〉共創となりました。この〈絵本タイム〉の様子は絵本通信13号14号でご覧いただければ幸いです。

絵本部会ワークショップ終了後すぐから、政治や宗教の違いを越えて、人間が生きる尊さに共感なされた参加者から好意的な感想やご意見が届きました。

なかでもニューヨークの公立図書館で毎日行われている絵本と歌遊びを用いたストーリー・タイムの報告、那須塩原市図書館で令和3年に連続的に実施された「ストーリー・タイムで遊ぼう」、さらに家庭での読み合い遊びという石川先生の三つの報告事例には「地域の団体、いろいろな年齢層、いろいろな職種の大人が協力して親子の子育ちを支える」活動として、じっくりともう一度聞きたいという要望が強く寄せられました。

2022年の第43回大会のテーマであるSDGsの視点から幼児教育を考えるというテーマとも合致することから、講演の形で再登場をお願いいたしました。〈発達心理学に興味があり生涯学習を通してコミュニティづくりを考えている研究者の方はもちろんですが、保育者、教師、児童福祉施設職員など、関心のある方であればぜひご参加ください〉とのことです。特別支援学校に通う子どもたちを包括したインクルーシヴ環境や、企業メセナとの連携も視野に入れた活動も、この4月からはじめられる由。ご期待ください。

ウクライナ侵攻を食い止めるのは、軍事力というハードパワーではなく、一人一人の日常の文化の連なりというソフトパワーだという声が微弱でも確かに届くようになりました。

『地球上の誰一人として取り残されない』ように

(宮地敏子 記)